

山形東高 同窓会報

平成25年4月1日

第65号

【発行所】
〒990-8525 山形市緑町1-5-87
山形東高同窓会事務局
TEL・FAX (023) 631-7501
【発行人】
今野 雅行
【印刷所】
坂部印刷株式会社
TEL (023) 631-2056

平成24年度 山形東高同窓会
総会～表彰式～まつり



平成24年度同窓会まつり

九重会・東凌会



明治17年10月開校以来128年の歴史を歩む母校の同窓会まつりが、10月19日、ホテルメトロポリタン山形に600名以上が集い盛大に開催されました。

総会は5時30分、物故会員への黙禱に始まり、決算、予算、役員任命と創立130周年記念事業に係る協議が全員異議なく原案どおり承認されました。

表彰式では、10年勤続の先生方8名への感謝状と阿部諒悦元事務局長に功労者表彰、喜寿祝賀の山東5回古希会46名の皆様に記念品が贈呈されました。

6時30分、まつりがスタート、今回の当番幹事は、九重会（東高25回）と東凌会（同47回）。九重会 本間隆一実行委員長による開会挨拶、校歌斉唱の後、浜田敏同窓会長から130周年記念5事業中「東日本大震災の記録」の説明と募金の要請がありました。

続いて、柳谷豊彦校長が山東生の近況をご報告。NGO、JRC活動など世界に目を向け、また、東日本大震災被災地支援ボランティアなど、高い志を掲げ努力する姿が紹介されました。さらに、

土田正和仙合同窓会長からは、オールジャパンで逞しくしかも優しくを基本に、これからも誇りのもてる山東を目指してほしい旨のご挨拶をいただきました。

現役山東応援団とチアリーダーの若さあふれるエールで和んだ後、小林義和東京同窓会長の発声で乾杯。祝宴では、九重会メンバーで山形オペラ協会副会長の高橋寛君（テノール）が妻まり子さん（ソプラノ）と並んで「乾杯の歌」「ケセラセラ」など明るく澄んだ歌声で会場を大いに盛り上げてくれました。

広い会場、間隙も無い中を、恩師、同窓、先輩、後輩との交流に時間はあっという間に流れ、最後は、「おお勝利」の大合唱と万歳三唱でお開きです。

まつり開催まで当番幹事一同、4月から実行委員会を重ねて準備してきました。この間、ご指導、ご協力を賜った今野雅行同窓会事務局長、各学年幹事の方々並びに関係の皆様深く感謝申し上げます。

記 秋葉秀出男



御礼

— 創立130周年に向けて —

校長 柳谷 豊彦

平成24年度は山形東高校同窓会のあゆみを象徴する二つのエポックがありました。すなわち、『会員名簿』の発行と創立130周年記念事業実行委員会の発足です(共に7月20日)。会員の〈現在地〉を確かめるとともに、当面する取組み(記念事業を通じた組織づくりと交流)へとスタートを切ったのでした。

今年度も浜田会長や今野事務局長などとともに、地域(県内外)や職域の同窓会に数多く出席させていただきました。地域同窓会同士をつなぐ奇縁に立ち会うという幸福もありました。平成23年東京同窓会懇親会の実行委員長を務められた板垣信幸さん(主一会、NHK解説主幹)が、平成24年夜間部同窓会東京支部総会で講師として招かれ、アメリカのいわゆる財政の崖に言及した講演「激動する世界経済と日本」をなされたのです。例年、東京同窓会懇親会には中村浩三東京支部長をはじめ、夜間部同窓会の役員も多数参加されていますが、実はこの講師選定には隠れたエピソード(縁)があったのです。板垣さんの父君が昭和29年から34年まで、山形東高校夜間課程で数学の教鞭をとっておられたのです。講演終了後の懇親会では、亡き父親=恩師の思い出で交流するほほえましい時空間が講師の周りにできていました。

さて、私はいろいろな機会にしだれ柳の倒木被害(昨年8月25日夕刻)について話しています。

喜寿を祝ひ母校めぐれば校庭に

大樹となりし柳が迎ふ

雷鳴は百三十周年山東の

転機促す天啓なりや

前者は、東一会・五十嵐(阿部)敏夫『淡き日輪』所収歌、後者は、瑞穂会・遠藤來二(元校長)「柳の大樹に寄する九首」中の一首です。伐採された巨幹の傍らからは、それでも新しい枝が伸びはじめています。「九首」中のもう一首です。

この柳その二世も生享けて

すくすく育つと聞くは楽しく

母校は、同窓生(同窓会)の二世としての山東生(在校生)を導き、成長を見守っていきます。そして、生徒・卒業生の命の根たる同窓会の発展を心より願うばかりです。

《追記》創立130周年記念講演は、佐々木毅氏(第27代東京大学総長)を予定しております。



ご挨拶

同窓会長 浜田 敏

皆様には益々ご清祥の御事お慶び申し上げます。また、日頃より同窓会に対するご理解とご協力を賜り心より感謝申し上げます。

明治17年10月に創立した母校は来る平成26年10月29日に創立130周年の記念の日を迎えます。

母校は明治、大正、昭和、平成の4代にわたり文武両道、質実剛健の校是のもと、2万7700名に及ぶ有為な人材を各界に輩出し、山形県のみならず我が国の発展に大きな貢献をしております。

また、10年ごとに実施してきた創立記念事業は母校及び同窓会を活性化させ、新しい歴史と伝統を築いてきました。

「来るを続けて遠きにいたす」精神のもと「理想の高きを仰ぎ」「国家の運命を雄々しく負わん」人材を育成するために創立130周年記念事業を推進してまいります。

記念事業の概要は以下のとおりです。

- 1 「東日本大震災と山形東高の生徒・同窓生の記録」の作成。本の出版も行います。
東日本大震災に関する記録を残すため、山形東高の生徒、同窓生が一体となって取り組む活動です。
- 2 記念コンサートの開催。その時に上記の「記録」の発表会を行います。
- 3 山東歴史資料館の設置。学校、同窓生のもつ母校の貴重な資料を整理、保存し、展示するための事業です。
- 4 西校門周辺の整備事業
- 5 山東奨学会への寄附

1つ目の「東日本大震災と山形東高の生徒・同窓生の記録」については、すでに生徒669名から大震災に関する感想、意見を提出してもらっています。その一部は本事業特設ウェブサイトに掲載しております。今度は同窓生の皆様から感想、ご意見をいただく番です。震災時に思ったこと、大震災を振り返って今思うこと、将来この記録を見る人への一言など皆様の感想、ご意見をおまちしております。投稿の方法は後掲のとおりです。

創立130周年記念事業の募金活動も昨年10月から始まりました。母校、後輩のために、また新しい歴史と伝統を築くため皆様の特段のご協力、ご支援を心よりお願い申し上げます。

結びに、母校の益々の隆昌と皆様のご健勝を祈念しまして、ご挨拶と致します。

平成24年度 松田杯等四賞

《松田杯》女子ハンドボール部
 県高校総体第2位
 東北高校選手権出場

《鈴木杯》
 音山友里恵 (フェンシング部)
 県高校総体 女子個人サーブル 第1位
 (インターハイ、東北大会出場)
 東北フェンシング選手権大会
 女子個人サーブル 第5位
 全国高校総体 女子個人サーブル ベスト16

《矢野杯》囲碁・将棋部
 県高校選手権大会
 (将棋) 男子団体 優勝、女子個人 優勝
 (囲碁) 男子団体 優勝
 県高校竜王戦大会
 (将棋) 優勝 (尾形裕斗)
 全国高校総合文化祭
 (将棋) 男子団体 ベスト16
 女子個人 (阿部美鈴) ベスト16
 (囲碁) 男子団体 出場
 全国高校囲碁選手権大会 男子団体 出場

全国高校将棋竜王戦大会 (尾形裕斗) 福岡大学長杯
 県高校総合文化祭 (将棋) 男子個人 第2位、第3位
 女子個人 優勝、第2位
 (囲碁) 男子個人 第2位、第3位
 東北高校選手権大会 (囲碁) 山形県チーム 第4位
 (将棋) 男子個人・女子個人出場
 全国高校新人大会 (将棋) 1/31~2/2 (北九州)
 《駒草杯》尾形裕斗 (囲碁・将棋部)
 山形県高等学校将棋選手権大会
 男子団体戦 優勝 (大将)
 全国高等学校総合文化祭将棋部門
 男子団体 第5位 (大将)
 山形県高等学校竜王戦大会 (男女混合) 優勝
 全国高等学校竜王戦大会 福岡大学長杯
 (敗者復活戦 優勝)

同窓会特別賞

〈中村賞〉 宮本洋喜
 〈木村賞〉 音山友里恵
 〈山形東高同窓会賞〉 細矢拓海
 〈山形中学校東高等学校東京同窓会賞〉 武田まりの
 〈山形東高仙台同窓会賞〉 半田 徹

体育・文化活動総況

平成24年度の体育活動、文化活動における山東生の活躍ぶりを紹介いたします。

県高校総合体育大会では、地区予選を第1位で突破した柔道女子57kg級の武田まりの選手が決勝戦で鶴岡中央高の選手を優勢で破り優勝を果たしました。また、フェンシング競技に出場した音山友里恵選手は、サーブル種目で決勝リーグに進出、終始冷静な試合運びで全勝し、女王の座を勝ち取りました。以上の2名は、ともに女子部員一人という恵まれない環境の中で練習を続け、3年生最後の大会で見事栄冠を手にし、北信越かがやき総体への出場を決めました。また、岐阜県で行われた国民体育大会には、テニス競技に菅野悠耶選手が県代表として出場しました。

一方、文化活動においては、富山県で開催された全国高校総合文化祭に、囲碁部門、将棋部門、文芸部門、自然科学部門、器楽・管弦楽部門の5部門に参加しました。中でも将棋部門は、昨年、男子団体・女子個人で全国入賞を果たし、今年も期待されましたが、残念ながらいずれもベスト16という結果に終わりました。

ボランティア活動においても様々な取り組みが行われました。JRCに所属する廣田瑠花さんは、青少年赤十字国際交流としてカンボジアに行き教育支援事業に参加しました。また、今年初めて生徒会が進めたプロジェクト『えがお大作戦』では、310個のランドセルをアフガニスタンの子どもたちに贈ることができまし

た。そのうち生徒が持参したものが194個、一般市民等から学校へ届けられたものが116個で、中には山形に帰省した折、テレビや新聞でこのプロジェクトを知った方から宅配便で届けられたものもありました。

職員動向

本校に係る平成23年度末人事異動を御報告いたします。転出された皆様の御尽力に心から感謝申し上げますとともに、益々の御健勝を御祈念申し上げます。また、転入された皆様には、本校の更なる発展のために御活躍くださるよう御期待申し上げます。(敬称略)

〈転出者〉

渡邊 敏 明 (事務部長・2年)	ご退職
土田 真 一 (地歴・11年)	長井高校へ
岩井 淳 哉 (数学・7年)	長井工業高校へ
鬼海 博 行 (保健体育・7年)	霞城学園高校へ
安日 恵 子 (家庭・9年)	教育センターへ
松尾 翠 (英語・1年)	米沢興譲館高校へ
酒井 結 希 (総務主査・3年)	村山総合支庁へ
高橋 和 之 (学校技能員・7年)	山形西高校へ

〈転入者〉

東海林 聡 (事務部長)	県土整備部より
森美 千子 (地歴公民)	教育センターより
赤井 芳賀 寿 (数学)	山形南高校より
那須 祐 介 (保健体育)	酒田北高校より
堀 祐 介 (家庭)	霞城学園高校より
井 勝 己 (英語)	高島高校より
三澤 明 美 (総務主査)	村山特別支援学校より
蛇 子 一 (嘱託技能員)	山形西高校より

創立128周年 記念式典 記念講演

大妻女子大教授、テレビ朝日コメンテーター、前朝日新聞編集委員 五十嵐 浩司氏より「君たちの目が、世界を読み解く」と題してご講演頂きました。

その一部をご紹介します。

今日は何を話そうかずっと考えていたんですが、「君たちの目が、世界を読み解く」というタイトルにさせてもらいました。ややアフリカ系の話が多いかなと思います。先ほどの浜田同窓会長が東大の小宮山先生の言葉を三つ引用していましたが、その中で言うと、「他者を感じる力」「豊かな人間性」、「社会的弱者をどう感じるか」、というような話しをしたいと思います。

この写真、知っていますよね。中学校の英語の教科書にも出ている。高校で習ったことのある人もたくさんいる。これ見たことある人どのくらいいますか？予想通りほぼ全員見たことがある。1994年のピューリッツァー賞を受けた、有名な写真。論争が起きたんです。一人の子供を助けるか、全体を助けるか、という論争でした。撮影をした人を知っていますか？ケビン・カーターという人です。実は僕は、ケビン・カーターを知っているんです。この写真の撮影場所は、アフリカのスーダンという国、難民キャンプなんです。スーダンの写真をお見せすると、これなんです。干ばつを逃れたスーダンの難民の人たち。ケビン・カーターが写真を撮ったのは、ここではありませんが、このすぐ近くの難民キャンプです。今、君達にこういう写真を次々見せていったのは、最初に見たあの写真は、君達にとっては教科書の中で見た一枚の写真。こんなかわいそうなアフリカがあるんだ、こんな時私たちはどうすればいいんだって事を習った。ここでは、論争を見たあの写真にこんな背景があった、撮った人を知った、場所も知った、時間も知った、しかもそこに山形の君たちの先輩である、僕が大きく関わっていて、同じ様な事をしていた。そうやって見るとどうだ。さっきと少しは、君達の理解、写真の見方って違わない？そうかこれはあのケビンが撮ったのか、

とかね。もしかしたらこの隣の難民キャンプに前の年、先輩である私が行っていたんじゃないか、とすると少し距離が縮まらない？でも、遠いよな、と思うんだ。こんな事ぐらいで、五十嵐が行っていたスーダンだったら俺にとっても友達だな、とはならないと思うんだよね。そんな話を今日は考えたくて、持ってきたんです。

これは、僕が去年の3.11後の写真で一番深く心に刻まれた写真の一つです。若い女の子が一人で裸足で泣いている。この写真を見たとき僕は、胸が詰まりました。さあこの写真、君はどうだ？君は去年の3月11日のあの時間何をしていた？この写真のほうが、こちらの写真(ケビンの写真)よりも心が動かされるというのは、近いからって言っていたよね。距離の問題。それから、同じ民族。もしかしたら私がそうになっていたかもしれない、東北というエリアのシンパシーのようなもの。それから、私があえて「あの時何していた？」って聞いたのは、君達にもやはり程度の差こそあれ、同じ地震の体験を共有している人達なんです。そういう気持ちがあってはじめてこの写真は、この写真(ケビンの写真)よりもずっと君達の心を捉えている。一方で、私達はこうやってこの写真に共感を分かち合うんだけど、それから日本のあちこちで何が起きたんだろう。放射線の影響がほとんどない岩手県の瓦礫を拒否し、宮城県建設物質を撤去させました。一体これは何なんだろう。拒否した人達は、アフリカとこの震災の写真の違いがあまりないのか、どうなんだろう？私は、私達の心はどれだけ広いんだろうという自問自答をよくします。

私は山形から東京に出て、ロンドン2年、ナイロビ3年、ワシントンとニューヨークで7年半ぐらい暮らしていました。そのなかのケニアでは一番記憶がある。私がどうして新聞記者を辞めて大学に行ったか、どうしてみんなにこういう話をしたいのか、一つの理由はルワンダで起きたことなんです。ルワンダは、大変な内戦があった。1994年の4月に80万から100万人ぐらいのルワンダ人が虐殺されました。ここで「ホテルルワンダ」の映画の1シーンをお見せします。虐殺の報道について「世界の人たちはあの映像を見て、『怖いね。』と言うだけで夕ご飯を食べ続けるのだよ。」というシーンがあります。まさに僕はそうだと思うのです。どこまで共感できるのかということ。今受験でどこの大学行こうか、って考えている時に、なかなか「ルワンダでね…」って言われても君達は共感できない。僕はその通りだと思うのです。そこから先にどうやって共感を、先程の震災の写真に感じた様な、君達の思いを寄せるような

ものを、私達がどう報道し、かつ、君達がどうやってそういう力を養っていくのが大事だと思うのです。

9.11 同時多発テロからの経験を話したいと思います。去年、現地を再訪しました。ワールド・トレード・センターで死んだ二千数百人の写真や名前、家族や友人の手紙が貼られている記念館の壁の前に立った時に胸が詰まりました。でも同時に僕が考えていたのは、そのあとで、報復ということで武力攻撃を起こしたこと。それによってアフガニスタンとその隣のパキスタンではだいたい市民も入れると20万人ぐらい犠牲になっている、とてつもない数字です。ところが、私達メディアは、その一人一人を報道することもないし、多分現地に行っても、その名前や写真、手紙が共有されることは決してないだろうと思うんです。私が必死になって言っていたのは、ニューヨークというのは、アメリカの中で例外的に、心の広い街なんです。そこが攻撃されて、二千数百人の痛ましい犠牲者を出した。そこに住んでいる人であれば、戦争で、家族や友人を亡くしたアフガンやパキスタンの人達のことをほんのちょっとでもいいから思いを寄せられるんじゃないか、思いを馳せられるんじゃないか、という気持ちです。アメリカの中にもそういう話に同調してくれる人はいますが、ほとんどの場合、自分達の強いアメリカという殻の中から出てこないんです。山形東高校の人達には、思いを馳せ、他者への共感、他者を感じる力というものを是非考えて欲しいんです。

私達は、3.11 というのを経験して、単なるアジアにある豊かな国っていうだけじゃなくなったんです。国際赤十字は、福島第一原発の事故で、故郷を離れざるを得なかった人達を難民と認定しているんです。正式に言うとな国内避難民という名前ですが、日本の中に難民がいる、なんてちょっと考えられないですよ。僕は、今ね、君達日本の、しかも東北の高校生達が、被災地である私達が、難民の中の一人であるという意識から、世界で何が起きているんだろうか、どうして世界に社会的弱者のような人達がいるんだろうかということに是非考えて欲しいと思うんです。特に東北の君達だから、山形の君達だから、遠くに共感する力、そういうものを養うのが、義務なんじゃないか、と思うんですよ。

僕はマスメディアに働いていました。私達は君達が、見えないところにしっかりと目を向けてくれるように情報を出すのが仕事なんです。毎日毎日刺激じゃないけど、それを積み重ねていくことで何かが見えてくるんじゃないか、そんな仕事だと私は思います。また、受け取る人達が、そ



の情報をどう読み取るか、例えばあのハゲワシに狙われている少女を君達がどう読み解くのか、先ほどのビルが煙を上げている写真から君達が何を発見するのか、その力が大事なんです。私には、この力を培うのにいくつかの方策があります。私のように、勉強より体を動かす方が好きだっている人は、色んな場所を訪ね経験をするによって積み上げていったものに学びがあると思うんです。高校の学びの中にも、世界史でも国語でもその中に必ず発見する手がかりがあると思うんです。日々の学びもあるかもしれない。僕は、君達に是非身に着けて欲しいもの、それは、待っているだけじゃない、自分から動いて行って自分で知ろうとする、そういうベクトルですね。つまり君達は一つの小さい山形という町の高校で、狭い科目を勉強しているだけかもしれないけれど、その方向性、君達がそこから何を、どこへ行くのか、それさえずっと持ち続けていれば、必ずそれが世界につながっていく。君達の中でこれから将来世界に出て活躍する人もいるだろうし、山形に残って山形を良くしようということに動いていく人もいると思う。だけどその時、常に君達は、例えばさっきのスーダン、3.11、そして9.11の時のアフガンもニューヨークも君達とつながっているんだ、そういう意識で物事を見ていく。それが私達の社会とかこの国とかをどんどん良くしていくことなんだと思うんですね。

君達は、日本と東北とで山形を導いて行ってくれる人達だと思いますので、他者と共感するような一つのベクトルを常に自分の中に持っていたいただけたらと思います。ご清聴ありがとうございました。

体 育 部

母 校 近 況

文 化 部

平成24年度は、生徒達の頑張りによって多くの部が各種大会で好成績を収めてくれました。その中の主な成績を御報告します。

- インターハイ
フェンシング 女子個人 音山友里恵 ベスト16
柔道 女子57kg 武田まりの 出場
スケート 男子 大井 洸慈 出場
国体
テニス 少年男子 菅野 悠耶 出場
県高校総体
優勝 フェンシング(女子) 個人一
柔道(女子) 個人一
準優勝 ハンドボール女子団体
3位 山岳男子
フェンシング男子団体
テニス女子団体
フェンシング(男子) 個人一
テニス(男子) 個人一
なぎなた(女子) 個人一
東北高校総体
フェンシング 女子サーブル 第5位 音山友里恵
東北総体
山岳競技 リード競技・ボルダリング競技第4位
総合第4位 金澤ひかり
東北新人大会
水泳 男子200m平泳ぎ 第4位 濱本 宜輝
全国高校選抜大会
なぎなた 個人の部 出場 寺澤 裕希
その他の全国大会
全日本都道府県対抗剣道優勝大会出場 山田 裕道
全日本選手権大会 ジュニアの部女子シングルス
出場 寒河江智佳

以上のような成績です。生徒達の弛まぬ努力の成果であり、また、来年度の飛躍につながる結果だと思えます。今後とも同窓会の皆さまにご支援をお願い致します。

継続は力なり！今年もまた多くの実りを得ることができました。各部の主な成績をご報告申し上げます。

- 演劇
第39回山形県高等学校演劇合同発表会
優秀賞第1席(第3位)
文芸
第36回全国高総文祭富山大会
散文部門 加藤 眞子(3年)
短歌部門 小野 壮亮(3年)
第11回山形県高校文芸コンクール
散文部門 今野 華奈(3年) 最優秀賞
短歌部門 小野 壮亮(3年) 最優秀賞
俳句部門 太田宗一郎(3年) 最優秀賞
県高文祭
短歌部門 小野 壮亮(3年) 総合文化祭賞
散文部門 今野 華奈(3年) 総合文化祭賞
俳句部門 太田宗一郎(3年) 総合文化祭賞
新聞
県高校新聞コンクール 優秀賞
音楽
全日本合唱コンクール山形県支部大会 銀賞
吹奏楽
全日本吹奏楽コンクール山形県大会 銀賞
数学
山形県数学コンテスト
大西 智也(3年) 最優秀賞
書道
第55回東邦書道会全国展 団体 最優秀賞
写真
高文連第12回フォトコンテスト
吉田 佳奈(3年) 優秀賞
マンドリン
第36回全国高総文祭とやま2012出場(山北・山辺と合同)
囲碁将棋
全国高総文祭将棋部門
男子団体 ベスト16
阿部 美鈴(3年) ベスト16
全国高校竜王戦大会
尾形 裕斗(3年) 福岡大学長賞
全国高校囲碁選手権大会
男子団体・後藤哲之助(1年) 出場
放送委員会
県高校放送コンテスト
テレビドラマ部門 第1位
テレビドキュメント部門 第2位
ラジオドキュメント部門 第2位
NHK杯全国高校放送コンテスト
アナウンス部門 田村千愛(3年) 出場
第18回山形県高校放送コンテスト新人大会
朗読部門 奥山 文(1年)
ビデオメッセージ部門 第2位

平成25年度

同窓会総会・表彰式・まつり

- ◆日 時：平成25年10月18日(金)
総会は午後5時30分より
◆会 場：メトロポリタン山形
◆会 費：5,000円
◆当番幹事：互一会(山東26回)
天成会(山東48回)
◆喜寿者：六翠会(山東6回)

来年もさらに精進してゆきます。応援よろしくお願ひします。

おもな大学の合格状況

栄継会 (平成24年3月卒業)

センター試験の大掛かりな変更がトピックであった。出願方法の変更、理科・地歴公民の実施方法変更、大学の第1解答科目指定など、受験生や高校現場は対応に追われた。不安定な経済情勢や学生の就職難を背景に「国公立大人気の安定」「理系学部や資格系統学部の人気」が続いている。

本校の概況としては、現役進学者数174名(73.1%)、うち私立が44名(含防衛大)、64名が浪人という結果である。東北大は結昇会(H21年度入試)以来50名を超えた。私立は受験者が大幅に増え、現役指向が見受けられる。1学年時からの模試の推移を振り返ると厳しいときもあったが、センター試験には帳尻を合わせた。東大志望者について、センター試験後の自己採点リサーチの結果B、C判定がついても東大に

チャレンジしない生徒、直前まで東大志望であったが足切り予想得点の影響もあったかも知れないが、あっさり出願校変更に至った生徒が複数いた。様々な事情があると思われるが、珍しい現象である。

東北大志望者について、前期試験に着目すると文系学部受験者の7割以上は合格しているが、理系学部志願者は5割以下であった。途中経過を見ても数学・理科(化学)の伸びが今ひとつ足りなかった。基礎基本(圧倒的な基礎力)の定着度合いの確認・評価が大切である。

医学部医学科志望者については、推薦・一般入試いずれにせよセンター試験で高得点をとることが必要条件といえる。国公立大医学部医学科合格6名(内、一般入試合格2名、他は推薦)、獨協医科1名(指定校推薦)、自治医科1名の合計8名が現役合格。志望者数の5割以上を現役で合格させる指導法が本校・本県の課題でもある。

私立大については、現役生の受験者が大幅に増え、現役指向が見受けられる。現役生私立大合格者総数は過去8年間と比較しても最高であった。

平成24年度 全大学合格者数(延人数) 単位:人

【国立大学】

大 学	人 数	大 学	人 数	大 学	人 数	大 学	人 数	大 学	人 数	
北 海 道	2	秋 田	3	東 京 農 工	1	獨 協	2	同 志 社	2	
弘 前	1	山 形	医 3	一 橋	1	青 山 学 院	8	立 命 館	1	
岩 手	1	全	20	横 浜 国 立	4	学 習 院	1	自 治 医 科	1	
東 北	文	5	茨 城	2	新 潟 潟	21	慶 應 義 塾	1	【計】	
	教	3	筑 波	5	名 古 屋	1	芝 浦 工 業	3		
	法	8	埼 玉	3	京 都	2	専 修	3		
	経	12	千 葉	4	琉 球	1	中 央	10		
	理	3	お 茶 の 水	1	【公立大学】		東 京 女 子	1		
	工	16	東 京	文	2	大 学	人 数	東 京 理 科		5
	農	3		理	1	福 島 県 立 医	1	日 本		3
	医		計	3	新 潟 県 立	2	法 政	8		
	保	1	東 京 外 国 語	1	【私立大学】		明 治	18		
	歯		東 京 学 芸	3	大 学	人 数	立 教	3		
薬	1	東 京 芸 術	1	東 北 学 院	4	早 稲 田	12			
全	52	東 京 工 業	1	東 北 芸 工 大	3	合 計	273			

全大学の合格者は山形東高校のホームページ(<http://www.yamagatahigashi-h.ed.jp>)の「進路指導」に掲載しておりますのでそちらをご覧ください。

六三志会

(平成25年3月卒業)

東北大はAOⅢで12名、前期試験で31名の合格。二次試験での挽回組(文系)が目立つ。逆に理系は判定が良くても厳しい結果となった。

東大は文系3名、理系1名の計4名。過年度は1名で合計5名の合格。現役二桁の壁は相変わらず厳しい。ただ、六三志会卒業生は志望校にこだわりを持って出願、受験となった。今後は大いに期待できると考える。

京大については理系3名、過年度2名の合格で合計5名である。出願人数は少ないものの、今年は現役全員が合格した。

医学部医学科は、国公立で弘前大学1名、山形大2名、新潟大2名、福島県立医大2名、私立で愛知医科大1名、聖マリアンナ医大2名、自治医大1名の合計11名である。

第63回卒業会名

む さ し 六三志会

【命名の由来】

創立128年、山形県立山形東高等学校として63回目の卒業に際し、我々は決意する。

脈々と受け継がれる校是「文武両道・質実剛健・自学自習」の伝統を、さらなる高みで体現していくことを。

今年度完成し、自立式鉄塔・電波塔として世界一となる634メートルの高さを誇るスカイツリーの如く、自立と奉仕の精神を常に持ち続ける。

また、天下唯一の武士を自負して「無二」と名乗った父と同じ志のもと、「無三四」の名を冠して二天一流を創始した剣豪宮本武蔵の如く、自負と孤高の精神で文武を極め続ける。

先輩諸氏が築き上げてきた伝統を高い志と共に実践し続けていくことを誓い、ここに「六三志会」と命名する。

(原案者 三年四組 清水 文香)

第58回体育部OB会総会



第58回体育部OB会総会と懇親会が平成25年2月2日、山形グランドホテルで開かれた。当日は土曜日ということもあって、約400人もOB、OGが参加。酒を酌み交わしながら旧交を温めるとともに、後輩たちのますますの活躍を祈念し合った。当番幹事はソフトテニス部とバドミントン部。

総会では、平成24年度の体育部活動状況や同25年度の行事予定が報告された後、役員改選を協議。茂木賢一会長と三澤康二郎副会長、奥山孝雄副会長、森谷寛理事長を再任した。任期は2年。また、平成24年度決算、平成25年度予算案を承認した。

続いて開かれた懇親会は校歌斉唱でスタート。現役応援団と吹奏楽部による演舞とエールも行われた。茂木会長は「たくさん集まっていただき感謝します。体育部OB会は昭和31年に発足した。現役時代、文武両道を成し遂げたみなさんには、後輩たちに、よき伝統を伝え激励してほしい」と挨拶した。柳谷豊彦校長は「昨年はインターハイでフェンシングの女子選手がベスト16に入った。サッカー部は東日本大震災で被災した石巻市でボランティア活動に励むなど、頑張っている」、浜田敏同窓会長は「後輩たちを物心両面で支援したい」と述べた。

席上、体育部OB会功労者表彰も行われた。受賞者を代表し、バスケットボール部OBの柿崎正修さんが「部活動では素晴らしい出会いと感動があった。いまでも心地よく振り返ることができる。母校とともにOB会が発展するよう願っている」と挨拶した。最後に参加者全員で応援歌「おお勝利」を合唱し、再会を誓ってそれぞれ帰路についた。次回の当番幹事はバスケットボール部とバレーボール部。

柿崎さん以外の功労者は以下の通り。(敬称略)

半田忠夫(陸上競技) 岡田ゆたか、五十嵐秀夫(柔道) 安孫子健一、富田良太郎(剣道) 小林義和(フェンシング) 栗原清彦、伊藤雅範(ソフトテニス) 伊藤忠彦、桑嶋誠一、後藤誠一(サッカー) 神保和史、錦本雅晴(野球) 工藤正幸、木村滋(バスケットボール) 内野庄逸(山岳) 鬼海博行、岩井淳哉(学校関係者)

バドミントンOB 松田直樹 記

第20回山東文化部OB会

平成24年7月27日(金)、山形グランドホテルに於いて「第20回山東文化部OB会総会」が、浜田敏同窓会長はじめ多くの来賓のご臨席のもと多数の会員が集い盛大に開催された。総会においては、吉田眞一郎会長が議長となり、前年度の事業及び決算報告そして本年度の事業計画と予算が審議され、いずれも満場一致で可決承認された。

平成5年6月25日第一回総会が開催されてから記念すべき第20回総会を迎えるに当たり、記念講演には、多忙の中テレビ朝日コメンテーター等で活躍の21回卒の五十嵐浩司氏に演題「新聞の伝え方、テレビの伝わり方」で講演頂いた。新聞編集委員とテレビのコメンテーターの立場の違いから見る報道の伝え方の違いなど、現役ならではの大変興味深いお話が聞けました。

その後、懇親会に移り同窓会長、学校長の挨拶、体育部OB会会長の乾杯で会員同士が和気藹々の懇親を深めました。席上恒例の音楽部による合唱などもあり大いに盛り上がりました。当番幹事でありました物理部・新聞部・文芸部の会員の皆様ありがとうございました。次回第21回総会当番部は、演劇部・生物部・化学部になりますが、新たな出発として多数のOB会員の出席を期待しております。

幹事長 武田 信博



「群竹」は絶え、柳は折れても

三年前の同窓会祭で、昭和45年の壮行式風景がスクリーンに映し出されました。当時の写真部が撮影していた貴重な映像です。

選手入場——。プラカードを持った女子生徒を先頭に、選手達が太鼓橋の下から次々と入場してきます。青空の下、飛び交う檄げきに湧き返るスタンド。応援団の剛健な「蟹の拍手」に舞う砂塵。どよめくように波打つ柳の大樹。

——あれから四十年。今や山東も名実ともに共学校となり、応援団にも華やかなチアリーダーが加わり、女子生徒達の絆となってきた「群竹会」もその役目を終え、今年度から廃止されました。

そして夏の終わり——。太鼓橋なき後も往時のよすがを留めてきた柳も、突然の雨風に煽られ、幹が裂け折れました。校舎改築の年に、つがいの梟がそこから飛び立っていったという伝説の、空洞化した幹は深い闇をなし、深く皺の刻まれた樹皮だけが老木の命を支えてきたことに驚かされました。「群竹」は絶え、柳は折れ、山東からまた一つの時代が去っていきました。

思えば、私が入学した頃は、それまで増加してきた女子生徒が激減に転じていった時代でした。父に付き添われ、新調してもらった紺のスーツで臨んだ晴れの日。講堂に入ると、左右に長椅子が整然と並び、正面には「孝」「義」の大きな掛軸。戦中派の父はしきりに感心していました。

クラスに、女子は二人。長椅子に腰掛けると、人一倍背の低い私は一面の学生服に埋もれ、合格の喜びはみるみるしぼんでいきました。

翌朝、登校すると教えられた通り、校舎脇の通路を奥へと進みました。便所の前を横切ると視界は急に暗くなり、右手に現われた引戸の南京錠を開けると、そこが群竹更衣室でした。しばらくして通信棟の二階で顔合わせがあり、自己紹介をしてお菓子を食べ、みんなで写真を撮りました。

わがやどのいささ群竹吹く風の

音のかそけきこの夕べかも

この大伴家持おおとものやかもちの春の歌が、「群竹会」の由来と教えられたように記憶しています。かすかな葉ずれの音に心細い自分を重ねながら、「一本の竹はか弱くても、それが群竹となれば」と心強さを感じました。先輩の姿を目できよきよ追いながら、それをお手本にして始まった高校生活です。

山東祭では講演会、座談会、弁論大会、留学体験報告会と続き、遠い世界の出来事が「顔」の見える情報となって打ち寄せてくるのを感じました。

あれも、学園民主化のうねりだったのでしょうか。秋になると、服装の自由化をめぐる生徒総会が連日開かれ、議論が白熱していきました。いきおい女子の服装だけが自由なのは不公平だという声が起こり、「質素端正」の自覚の有無について女子に起立を求めるといふ緊迫した場面を迎えた時には、ぎくりとしました。群竹に吹く風は春風ばかりではないと思い知りました。しかし、時には激しい雨に

打たれ、雪にさらされてこそ、竹は強くなるものです。あの時、私達はきっと「質素端正」という名の「自由と責任」を学んだのだと思います。

しかし、そう思えるようになるまでの一時、^{ひととき}雨風しのぐ場所も必要です。私にとっては、それが群竹更衣室でした。倉庫を改造して薄緑色に塗り替えられたという部屋の、東側の腰高の窓からは中庭が見渡せました。カーテンで仕切られた一角で着替えながら、「今日は水着姿で準備体操の当番だ」「柔道場の畳でもやけになった」といつも大騒ぎでした。中央にはビニールクロスを掛けた大きなテーブルが置かれ、なんとなく学年ごとの定位置がありました。あのテーブルと長椅子で、私は毎日弁当を広げ、少しだけ勉強し、時間も忘れて語り合い、泣き、笑い、時には眠り、折れかかった心に何度も元気を取り戻しました。そこはオアシスであり、シェルターでした。

当時の校舎は防火第一で、窓は小さく、教室は暗く、机と椅子は旧式の一体型、入試の日には下敷用の厚紙が、冬には防寒用の目張りが配られました。どこもかしこも「質実剛健」そのもののような校舎。でもその中であって、あの頃は誰もがそれぞれの居場所を見つけていたように思うのです。古色蒼然とした図書館、饅頭のうまかった食堂、鼠の走り回った部室、いつも悠然と風にそよいでいた柳……。その姿に心癒された人もきっと数多くいたはずです。

若者を取り巻く環境は厳しさを増しても、——いや、だからこそと言うべきでしょうか。現代の生徒達にも、この山東の中に、自分をさらけ出し、心癒せる場所を見つけてほしいと願わずにはいられません。

いま、柳は——トルソーのような姿になり果てて厳寒にたたずむ老木は、私達に、毅然とした老いの生きざまを、神々しいほどありありと見せています。

(現職員、志也會 渡辺 季子)



初めての「首都圏研修」を実施して

第2学年主任 丹野 学

平成23年3月11日の東日本大震災発生の約1ヶ月後に入学した現2学年は、入学当初から様々な面での影響を受けた学年でもあります。昭和48年から続く、長い伝統を持つ、岩手山青少年交流の家(旧岩手山青年の家)での研修旅行が、災害復旧を行う自衛隊の宿営施設として青少年交流の家が使用されていたため、中止を余儀なくされたこともその一つです。やむを得ない事情とはいえ、修学旅行のない本校生にとって、学年全体で宿泊する唯一の機会である研修旅行を実施できないという状況に直面することとなり、担任団は当惑しました。研修旅行に替わる学年行事を実施できないか。近年重要性が高まっているキャリア教育の一環として、首都圏の企業・研究機関への訪問研修のようなものを実施できないか。こうした思いから、1年次の5月頃から「首都圏研修」の実施についての検討を始めました。

しかし、初めての試みということもあり、実施に向けた様々な準備は試行錯誤の連続でした。特に、訪問する企業や研究機関の選定は非常に難しい作業になることが予想されました。そこで、山形中学・山形東高東京同窓会に御相談させていただいたところ、首都圏で活躍されている先輩方がお勤めになっている企業・研究機関を訪問させていただけることになりました。

こうして先輩方の御協力や保護者の皆様の御理解をいただき、昨年(2023年)の11月に次のような概要で首都圏研修を実施することとなりました。

◎実施期間

平成24年11月20日～22日

◎訪問企業・研究機関

文系：朝日新聞東京本社・三菱総合研究所・JTB・NHK・プルデンシャル生命・ラウンドアバウト・東京ドームホテル・文藝春秋・博報堂・ベネッセコーポレーション・松田総合法律事務所・森ビル

理系：産業技術総合研究所・宇宙航空研究開発機構・

高エネルギー加速器研究機構・物質材料研究機構・地図と測量の科学館・農業生物資源研究所・五洋建設・IHI・ANA機体メンテナンスセンター・KDDI研究所・味の素食品研究所・東京大学医学部・東京大学先端科学技術研究センター

◎研修形態

20日午後と21日午前、それぞれ文系6カ所、理系6～7カ所の研修先の中から1カ所ずつを訪問して、企業・研究機関内の見学や事前に送付した質問事項について担当者との質疑応答を行う。

研修の最終日には、研修の成果を報告するプレゼンテーションを行いました。研修の中で経験したこと、発見したことを自分の言葉で表現する生徒と、それを自分のものとして吸収しようと真剣なまなざしで聞く生徒の熱気が会場を包みました。

生徒も3日間の研修を充実感をもって終えたようです。学校に戻った後、今回の研修を総括するための生徒アンケートを実施し、その中で、実施する前のこの研修に対する期待度と、実施した後の満足度を100点満点で点数化させました。その結果、実施前の期待度64.8点から実施後の満足度78.3点と13.5点アップという結果が出ました。この数字からも、生徒が今回の研修で多くのことを学び、将来の人生設計を考える上での多くの示唆を得たことが窺えます。

多くの方々の御協力をいただいた中で、初めて実施した首都圏研修でしたが、大きな成果があった一方で反省点や改善点もあります。それらは、今年の研修をベースにしながら回を重ねていく中で一つ一つ解決していくことと思われれます。今後、首都圏研修が長年に渡り、より充実した内容で、新しい山形東高の学年行事として実施され続けることを、最初に実施した学年として期待いたします。

(現職員、双譽会 丹野 学)

事務局日誌

平成24年

- 4月6日 事務局会議 構成・業務分担(まつり実行委員会は随時)
- 4月8日 平成24年度入学式(学校)
- 5月9日 第1回役員会
平成23年度決算、平成24年度事業計画・予算
- 6月19日 130周年記念事業準備委員会
記念事業の内容、日程、必要経費規約、役員、実行委員、募金方法
- 6月19日 山形県庁東高会総会
- 7月4日 山形市役所東高会総会
- 7月11日 全国大会出場選手激励会
- 7月11日 米沢支部総会
- 7月20日 臨時評議員会・130周年記念事業実行委員会設立総会

- 7月27日 文化部OB会総会
- 8月1日 会計監査
- 8月24～26日 山形祭(学校)
- 8月25日 「30歳になったら東高に帰ろう」ホームカミングデー(そうきかい) 第2回役員会
- 8月29日 平成23年度事業報告・決算・監査報告、平成24年度事業計画・予算、役員選出、平成24年度同窓会総会・表彰式・まつり
- 9月5日 平成25・26年度役員選出について
第1回評議員会
第2回役員会と同じ内容
- 9月22日 河北山東会総会
- 9月29日 寒江支部総会
- 10月19日 同窓会総会・表彰式・まつり
- 10月27日 関西山中山東同窓会総会
- 10月27日 山中山東東海同窓会総会
- 10月29日 創立128周年記念式典(学校)

- 11月8日 仙台同窓会総会
- 11月22日 山中山東東京同窓会懇親会
- 12月1日 山辺支部総会
- 平成25年
- 1月19日 大石田支部総会
- 1月27日 上山山形東高同窓会総会
- 2月2日 体育部OB会総会
- 2月5日 第3回役員会
平成24年度補正予算、平成25年度事業計画・予算、130周年記念事業について
- 2月14日 第2回評議員会・第1回常任委員会
第3回役員会と同じ内容
- 2月20日 山形県庁東高会総会
- 3月1日 同窓会入会式
平成25年卒 山形63回 六三志会
- 3月3日 平成24年度卒業式(学校)
- 3月6日 まつり幹事引継会

各同窓会だより

(順不同)

◇東京同窓会

昨年11月22日に大懇親会を無事開催することができました。参加者数は183名で、目標とした200名には届かなかったものの、概ね好評をいただきました。産直の芋煮、つや姫のおにぎりは良かったのですが、地酒があったという間になくなってしまい、日本酒好きの皆様には残念がられてしまいました。予期せぬ収穫(?)は、同期の仲間たちとの絆が復活したことです。

東京の広い空の下、姿かたちは変わっても共通体験を持った懐かしい仲間が散らばっていたこと、これは他の何物にも代えがたい。有難い経験をさせていただきました。

ありがとうございました。



◇仙台同窓会

仙台同窓会は11月8日(木)、同窓会本部の浜田会長・今野事務局長と母校の柳谷校長先生を来賓に迎え、総会と懇親会を開催しました。

議事では八木充幸会員(山東22回)が新任の常任幹事に選任され、懇親会では冒頭、出席者最年長の岡崎稔先輩(山中54回)より、会の活性化に向けて会員がもっと積極的に交流するよう叱咤激励がありました。

その後は世代を超えた懇談と、恒例の「はなぶさ真二」(大沼信正会員:山東13回)のミニ・コンサートで大いに盛り上がり、最後に嵐田光宏会員(同13回)のリードで校歌と「おお勝利」を斉唱し、盛会のうちにお開きとなりました。



◇栃木県支部

今年も11月18日に同窓会総会並びに懇親会を持ちました。参加者は今年も48会員のうち11名でしたが、大変面白く時間を過ごすことが出来ました。会長交代と副会長の人事案件もすんなり決まり新たに塩野操会長と矢吹清人副会長となりました。その後東鳩会の阿部さんの講演が趣味でやっておられる自転車の話で、大いに盛り上がりました。その後は個々の方々の近況報告、これも新しく参会された方には新鮮に感じた様でした。

会員の人数も増えずに会員の老齢化が目立って来まし

たが総会・懇親会は年々面白く成って来ているように思っています。来年は是非多くの方に参会戴き芋煮と山形酒の味を楽しんで貰いたいものです。

◇関西山中山東会

昨年10月27日(土)に例年同様、京橋のホテル京阪京橋にて、第16回総会・懇親会が開催されました。懇親会では、遠く山形より柳谷豊彦校長先生、浜田敏同窓会長にもご臨席いただき、地元山形や本校の状況を伺いました。引き続き少人数ならではの各人近況報告で大いに盛り上がり、ほぼ全員が二次会に流れて親交を深め合いました。

今回は昨年6月にFacebookを立上げ7月にはオフ会を開催するなど会員交流の拡大に努めた結果、出席者20名のうち初参加が5名を数え、更に三次会からの合流者も加わるなど裾野拡大への兆しも芽生えつつある会となりました。



◇東海同窓会

平成24年の東海支部総会は昨年10月27日に開催され、山形から佐藤副会長・今野事務局長・母校の東海林事務部長をお迎えしました。又、山形県名古屋事務所所長と東海山形県人会会長も来賓として列席していただきました。

総会の後、名古屋工業大学名誉教授の「小和田正(昭和30年卒)氏に『危険性と確率』の演題で講演をお願いしました。数学者の視点で判りやすく確率論を説明していただき、一同納得の講演でした。

平成24年の本部同窓会名簿の発行もあり、支部の名簿も大幅に改定しました。それにより総会には3名の新会員の参加がありました。前年の総会より参加人数が少なかったのですが、大変盛り上がりを見せました。名簿改定で、支部会員は約260名余りです。改訂前と比べて約60名増加です。改定名簿を活用し、より一層支部活動の活発化を目指します。

総会・講演会の後の親睦会には、昨年同様山形料理を調達し、懐かしい味を三～四品用意して、参加の皆さんに堪能してもらいました。

平成25年の支部総会は、11月16日に開催します。多くの同窓生の参加を募りたいと思います。(副会長 酒井和義 記)



◇寒河江支部

寒河江支部総会は平成24年9月29日ホテルシンフォニーにおいて滞りなく開催された。総会後の講演会は、講師に元朝日新聞論説委員であり、現在は朝日町立大谷小学校で公募の民間人校長としてご活躍中の長岡昇先生(山東21回四六会)をお招きし、「3.11から学んだこと」のテーマで行われた。豊富な知識と経験に基づいた内容

古稀会

昭和30年卒業の我々古稀会も喜寿の歳を迎え、これまでも還暦、古稀と節目の年には集いを催してきましたが、このたび、昔の面影をわずかに残した62名が北は札幌、南は神戸から天童ホテルに集い、喜寿の祝いを開催し、翌日、紅葉の最上川舟下り、藤沢周平記念館を観光し、メトロポリタン山形での平成24年度母校同窓会の席上で喜寿を祝っていただき、誠にありがとうございました。

今回、特にお世話になりました当番幹事学年の九重会、東凌会の皆さんに心からお礼申し上げますとともに同窓会、ならびに今後とも文武両面にわたり母校山東高のますますの発展をご祈念申し上げます。

古希会会長 大串喜久雄





で大変有意義な講演会であった。
懇親会では、尾形支部長挨拶に続き本部の浜田同窓会長と大沼敏美教頭に母校の近況報告をお話しいただいた。大沼教頭は大江町出身という事も

◇上山山形東高等学校同窓会

平成24年4月15日に母校に入学した新入生の激励会を開催しました。この会は平成2年度から始めたもので、23回を数えております。

まず、9人の新入生と同窓会役員の紹介に始まり、会食後、中村会長の激励、新入生の抱負を聞き、先輩の思い出話などを交えて楽しく懇談しました。

最後に全員で、校歌と応援歌を斉唱し、記念撮影後散会となりました。

この激励会は、本同窓会独自のものです。先輩と後輩をつなげる礎であると確信し、今後も継続していきたいと考えております。
(江口敏昭 記)



◇山辺支部

平成24年12月1日、町内の「三河屋」(ご子息が二人とも山東卒)において、第32回となる平成24年度の総会を開催した。本部から浜田会長、今野事務局長、学校から東海林事務部長をお迎えし、合わせて20名の出席者となった。

渡辺甚一郎支部長の挨拶の後、浜田会長から創立130周年に向けた同窓会の取り組みに関する報告を交えて挨拶をいただいた。総会後の懇親会は佐藤孝男顧問による乾杯の音頭で幕開けとなった。参加者はやや少なかったが、時が進むにつれてあちらこちらにできた人の輪の中でおいしいお酒をいただきながら談笑に耽り、宴たけなわのうちに閉会した。(山辺支部幹事長・三浦繁則 記)

◇米沢支部

山形東高同窓会米沢支部総会が7月11日夜、米沢市の東京第一ホテル米沢で開催されました。36名が出席、また柳谷豊彦校長と本部から浜田敏同窓会長、今野雅行事務局長を来賓としてお迎えいたしました。総会に先立つ恒例の講演会は昭和55年卒、峯田貴氏(山形大学大学院理工学研究科教授)による「マイクロ・ナノマシンの世界」でした。わずか20年の歴史の最先端科学ですが、いまやインクジェットプリンターからカメラの手ブレ補正機能をはじめとして自動車やロボットなど我々の生活のあらゆるものに役立っているということです。峯田氏は今後、医療面への



活用について研究を進めていきたいと話しておりました。

懇親会では、昭和26年(東校舎)卒業の栗野眞也先輩の音頭で乾杯の後、御年80を越えられた栗野先輩の元気溍溍としたスピーチから平成18年卒の村上雄太君や伊豆田拓君の若さあふれるスピーチまで、本当に楽しく拝聴しました。
(支部長 大野木利永 記)

◇山形市役所東高会

山形市役所東高会は総勢145名が丸となり、市勢の発展のため、日々頑張っております。

さて、当会ではより一層の親睦を図るため、今年度から総会のほか、新年会を開催することといたしました。

昨年7月4日に開催した総会では、浜田同窓会長、柳谷校長先生、今野同窓会事務局長からご臨席を賜り、母校の活躍や同窓会の近況を伺いながら、時間の経つのも忘れ大いに盛り上がりしました。

また、今年1月21日に開催した新年会では、今年度をもって退職される会員の方々を囲み、思い出話を花を咲かせました。

これらを通じ、会員同志の絆をさらに深めたところでもあります。

◇山形県庁東高会

山形県庁東高会は、会員数306名で運営され、会員相互の親睦を図るとともに母校への支援活動を行っております。

毎年、二回の定期総会を開催しており、平成24年度は菅野滋会長以下新たな役員体制のもと、山形市内のホテルにおいて、6月19日に第一回総会、2月20日に第二回総会を開催いたしました。総会は、校歌斉唱にはじまり、ご来賓の方々からご祝辞をいただき、また、母校への支援活動の一環として図書購入費、部活動奨励費及び奨学会基金を菅野会長から贈呈させていただきました。引き続き懇親に入り、酒肴を囲んで懇談し、旧交をあたためたところでした。最後に「おお勝利」を謳い上げ、万歳三唱を行い、散会いたしました。

◇大石田支部

3年ぶりとなる大石田支部総会を1月19日に町内「きよそば」にて開催いたしました。

ご来賓に浜田同窓会長、柳谷校長先生、今野同窓会事務局長をお迎えし、会員は昭和22年卒を筆頭に平成16年卒まで、21名の参加でした。

総会では、新支部長の織江氏をはじめ7名の新役員が決定し、また一昨年、町長に就任された庄司氏に花束を贈りました。

懇親会では、布川幹事長の絶妙な進行の中、大石田名物の新そばを堪能しながら酒を酌み交わし近況を語り合い、「おお勝利」の合唱とエールでお開きとなりました。
(事務局長 大類康裕 記)



◇河北支部

平成24年9月22日に浜田同窓会長、柳谷校長先生、今野事務局長を来賓にお迎えし、支部総会を開催しました。祝辞では、母校や同窓会の近況をご報告いただき、「ケータイ依存症」が深刻になっている話や、新たな取り組み

創立130周年記念事業

東日本大震災と
山形東高の生徒・同窓生の記録

ご回答いただく同窓生の皆様へ

投稿方法

■郵送の場合

〒990-8525 山形市緑町1-5-87
山形東高等学校同窓会事務局
創立130周年記念事業担当者 宛

■ファックスの場合

023-631-7501
創立130周年記念事業担当者 宛

■特設サイトの投稿ページから <http://yamatoudousoukai.com/130special/>

として「首都圏研修」を計画している話を伺いました。その後の懇親会では、会員の近況や高校時代の思い出話で盛り上がり、最後に「おお勝利」を合唱し、散会いたしました。



◇天童支部

当支部恒例の「新入学生を励ます会」(市内出身者対象)を、4月30日、天童ホテルを会場に開催しました。今年度の新入学生は30名で、例年にない多さに驚きと喜びを感じました。同時に出席者も8割を超え、当支部の取り組みも定着してきたという手応えを感じました。

会では、森谷英夫副支部長のあいさつのもと、新入学生が互いに自己紹介と今後の抱負を語りあい、昼食を共にしながら懇談しました。

新入生からは未来への大志と希望、厳しい高校生活への覚悟と不安とがこもごもに語られ、先輩からは体験に基づく適切なアドバイスと激励がありました。会場の天童ホテル(社長は押野宏副支部長)の心づくしの昼食に満足し、感謝しつつ散会しました。

こうした地道な取り組みが、新入学生同士の結びつきと将来に向けた支部活動の発展につながれば幸いです。(天童支部副幹事長 阿部浩一 記)

◇東鳩会

平成24年11月29日(木)東鳩会では東京スカイツリー開業を機に修学旅行を敢行した。

東鳩会では毎月19日に定例会を行い、毎年1回クラス当番で総会を開催している。今回の総会の当番は3クラスで、立てた計画が東京修学旅行を兼ねた東京での総会であった。計画は、東京スカイツリー、迎賓館赤坂離宮、

東京駅、皇居を見学し、ホテルオークラで総会を開催すると云うものであった。いざそれを実行するとなると参加者の募集、経費算出、貸し切りバスの手配、東京スカイツリーや見学場所の予約等々大いに頭を悩ませた。結果的には山形、仙台からバスに乗車した会員が20名、総会に出席した会員が51名でまずは大成功に終わることが出来ました。特に女性がその内12名を占めたことは嬉しいことであった。

修学旅行の無かった私たちにとって、童心に帰りバスに揺られ東京を見物し、総会では関西から駆けつけた会員もおり、久しぶりの邂逅に懐かしく楽しく、大いに会は盛り上がり旧交を温めることができたところです。(東鳩会事務局長 千葉 記)



■ 東京東一会同窓会 解散式 ■

「ああ我が紅顔、未来の光」を背負って山形中学に入学したのは、昭和20年、以来6年間、校名は4回変わったが同じ校舎に通い、卒業は26年、山形東高第1回の卒業 東一会、卒業以来61年余、相変わらず意気軒昂だが満80才(傘寿)ともなると正規の東京東一会の継続は困難と判断、平成24年10月1日をもって会は解散。全員の意志で、お世話になった山形東高に寄附させて頂く事とした。(30万円)

解散式は校歌の他「蛍の光」(学校に感謝)を歌いお互いの健康を祈ってお開きとした。来年からは有志で飲み会を継続する。(千布 英彦記)



敬 弔

同窓会報64号掲載以降～平成25年2月20日までに判明した方々です。

Table listing names and dates of obituaries, including names like 工藤 公正氏 and dates like 平成12年 7月.

Table listing names and dates of obituaries, including names like 会田 儀助氏 and dates like 4月5日.

Table listing names and dates of obituaries, including names like 齋藤 邦夫氏 and dates like 8月20日.

平成24年度 予算執行状況

(平成24年4月1日～平成25年1月31日)

収入の部

(単位:円)

Table with 6 columns: 科目, 当初, 補正, 計, 収入額, 摘要. Rows include 維持会費, 入会金, 繰越金, 雑収入, 合計.

支出の部

(単位:円)

Table with 6 columns: 科目, 当初, 補正, 計, 支出額, 摘要. Rows include 総会費, 会議費, 表彰費, 会報発行費, 通信費, 慶弔費, 諸手当, 生徒活動費, 奨励費, 連絡費, 資料整備費, 事務費, 寄付金, 積立金, 振込料金, 予備費, 合計.

※収入の維持会費は振込料金を含み、支出に振込料金の科目を加えている。

平成25年度 予算(案)

(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

収入の部

(単位:円)

Table with 5 columns: 科目, 本年度予算額, 前年度予算額, 比較増減, 摘要. Rows include 維持会費, 入会金, 繰越金, 雑収入, 合計.

支出の部

(単位:円)

Table with 5 columns: 科目, 本年度予算額, 前年度予算額, 比較増減, 摘要. Rows include 総会費, 会議費, 表彰費, 会報発行費, 通信費, 慶弔費, 諸手当, 生徒活動費, 奨励費, 連絡費, 資料整備費, 事務費, 寄付金, 積立金, 振込料金, 予備費, 合計.

※収入の維持会費は振込料金を含めた金額である。

山東奨学会

平成24年

- 2月17日 第59回評議員会 理事及び監事の選任 新公益法人移行関係 奨学生審査会
3月21日 第47回理事会・第60回評議員会
3月29日 平成23年度補正予算案 平成24年度事業計画案 平成24年度予算案
3月29日 奨学金贈呈式 2名に贈呈
6月5日 第48回理事会・第61回評議員会 平成23年度事業報告 平成23年度収支決算 新公益法人評議員選定委員会委員の選任 最初の評議員候補者の推薦 寄附行為の全部改正

慶祝

(同窓会報64号掲載以降～平成25年2月18日まで)

平成24年

- 2月28日 瑞宝双光章 鈴木 睦任氏(山東6回)
4月29日 旭日小綬章 酒井 靖悦氏(山東4回)

- 4月29日 瑞宝小綬章 伊藤 正之氏(山東2回)
4月29日 瑞宝小綬章 佐々木幹男氏(山東7回)
4月29日 瑞宝小綬章 鈴木 正浩氏(旧職員)
4月29日 旭日双光章 小松 公博氏(山東6回)
4月29日 瑞宝双光章 高橋 恒晴氏(山東4回)
9月3日 厚生労働大臣賞 板坂 勝良氏(山東9回)
10月19日 瑞宝双光章 岡崎 喜内氏(山東3回)
11月3日 瑞宝中綬章 長谷川篤彦氏(山東6回)
11月3日 旭日小綬章 高山 克英氏(山東11回)
11月3日 旭日双光章 東海林 修氏(山東3回)
11月3日 瑞宝双光章 枝松 淳氏(山東12回)
11月3日 瑞宝双光章 沼沢 政辰氏(山東10回)
11月3日 斎藤茂吉文化賞 石川 精一氏(山東1回)
11月20日 瑞宝双光章 城水 義邦氏(山東15回)
11月21日 山形県教育功労賞 有海 躬行氏(山東8回)

- 11月22日 教育者文部科学大臣賞 柳谷 豊彦氏(第41代校長)
平成25年 1月29日 瑞宝小綬章 堤 睦水氏(旧職員)

篤志寄付

(同窓会報64号掲載以降～平成25年2月20日まで)

平成24年

- 6月8日 学校教育活動費 30万円 東京東一会
7月4日 図書購入費 10万円 山形市役所山東会
9月27日 明治31年卒関係書簡、冊子等 斎藤 保男氏(山東6回)
10月18日 学校教育活動費 15万円 金鶏会(山中53回)

平成25年

- 2月5日 山形東高校舎画集及び同原画 桂木 宣均氏(山東29回) (6号油絵)
2月12日 同窓会まつり昭和55年度記念品 設楽 隆氏(山中55回)
2月20日 教育奨励費20万円 山形県庁東高会 (部活動費10万円、図書購入費5万円、奨学会基金5万円)

平成25年度 同窓会役員

Table of association members including roles like 会長, 副会長, 幹事, and names such as 敏, 修二, 松兵衛, etc.

地域・職域同窓会

Table of regional and professional alumni associations with columns for 同窓会名, 会長・支部長, 事務, and 局.

山中野球部 106年前のチャレンジ

河北町内の2軒の旧家から古い記録が見つかりました。一つは、山形中学校野球部と奥書のあるスコアブックで、明治39年8月2日の対荘内中学（現鶴岡南高）戦などが記録されています。もう一つは、翌日の明治39年8月3日撮影と裏書されている写真などで、これには山形中学の野球部選手18名と早稲田大学野球部選手3名が写っています。両家とも山形中学の野球部に在籍したご子息がおられ、その活動の記録を大切に保管されていたものです。今から106年前、日露戦争終了翌年の記録になりますので、全国の野球史においても貴重な資料になるものと思われます。

更に詳しく見ますと、写真には早稲田大学野球部選手として橋戸 信、河野安通志、田部信秀の名前が書かれてあり、スコアブックにはWriting by Kono and Tabe, umpireとしてHashidoと英文で記載されています。前年の明治38年8月3日付けの写真もありますが、その裏書には「暑中休暇野球練習」「講師」といった記載もありますので、夏休み恒例の、指導者を招聘してのクラブ活動だったと思われます。

ここで特に注目されるのは、橋戸 信や河野安通志が来校していることです。橋戸 信は、早稲田大学野球部の主将で、前年には日本チームで初めてのアメリカ遠征を行いました。早稲田の選手たちをアメリカの各新聞は大いに歓迎しましたが、「今度日本人の野球チーム早稲田大学チームが来朝した。これが我がアメリカ人以外のベースボールチームの最初の来征である。彼らは相当に強いそうである。そして試合に臨む折は大小の刀をさして来るかもしれない」「ロシアに大勝している日本人は戦争で勝った勢いで我等の国技ベースボールをもって戦わんと来朝した。面白いことである」（以上、『日本野球史』より）といった紹介記事もありました。橋戸は、当時まだ日本では知られていなかった数々の技術、戦略、用具などを学びとり、帰国後にこれらの新技術について、『最近野球術』という本にまとめ、広く紹介しています（この初版本もスコアブックと一緒に見つかりました。）また、他校への指導などで最新野球術の普及に努めた一人です。後に「都市対抗野球大会」を発案し、開催までこぎつけた功績が讃えられ、大会最優秀選手に与えられる賞として「橋戸賞」が設けられました。第1回の野球殿堂入りも果たしています。

河野安通志は、早稲田のエースピッチャーで、橋戸と一緒にアメリカへ遠征しました。そして、26試合中24試合に登板、現地で「Iron Kouno（鉄人河野）」と呼ばれたほか、河野の人気に目をつけたタコマというプロチームから、臨時に試合出場しないかと打診されたというエピソードもあります。帰国後も早稲田の主戦投手として活躍しましたが、当時は早慶戦が大人気で、応援戦が加熱しすぎる状況となったため、本校に来校した後2回試合を行ったところで早慶戦は中断となりました。その後、日本初のプロ野球球団を創設した功績などが認められ、野球殿堂入りしています。

プロ野球もまだ創設されてなく、早慶戦がヒートアップしている時代に、アメリカ遠征帰りの早稲田の主将と主戦投手を含む3選手を招聘することが、どのような方法で実現できたのでしょうか。全国から多数の技術指導要請がある中から、本校が選ばれた理由は何だったのでしょうか。

他校を凌ぐ高い技術レベルにあったこと、強い練習意欲を持っていたこと、招聘を実現してくれる太いパイプがあったこと、はたまた別な理由があったこと、何れなのかをご存知の方がおられれば、ぜひお教え願います。これは、本校だけでなく、山形県の野球史にとっても大変興味深いことです。

そして、本校のこの画期的な取り組みは1年限りのものではありませんでした。翌年の明治40年7月にも早稲田大学の河野と田部が再び来校し（橋戸はアメリカに留学）、更に3年目となる明治41年8月にも田部を含む2名の早稲田大学野球部選手が、講師として訪れていたことが写真に残っています。本校野球部の野球に対する強い意欲、技術の高い習得力、真摯な態度などが再訪の理由にあることは間違いないと思います。最初の写真では、本校の選手は地下足袋や草履姿ですが、2年目からはスパイクを履いています。ミットやグラブも本格的なものに変化しています。

甲子園大会もまだ始まっていない、1世紀以上も前の時代に、アメリカの技術を手本として練習をしていた大先輩の気概がとても大きく感じられます。野球の後進県などと揶揄されることもあります、決してそうではありませんでした。むしろ他よりも数歩前を歩いていた訳です。このことを誇りとして、その熱意を思い起こし、更なる歩みを進めてもらいたく、本稿を寄稿しました。山東関係者の益々の活躍を願いたします。

角川誠一（鵬雲会）



編集後記

今年度は、群竹委員会の廃止、首都圏研修の開始など山東にとって大きな変化の年となりました。そんなこともあり例年の会報と比べて山東の今をお伝えするページが多くなっております。一方、最終頁では山東創成期の貴重な資料をご紹介いただきました。

今号の編集は130周年に向けて連綿と続く山東の歴史を強く感じるものとなりました。

佐藤英司（東駿会）・佐藤実希子（翔洋会）